

【金賞】

『たまたま見つけたお米』

川南町立多賀小学校 4年 大下 心晴

わたしにとってお米とは、毎日食べる、おいしい大すきな食べ物です。いろんなおかずに合わせて、そのままでももちろんおいしくて、おにぎりも最高です。

わたしは母がお米を買うところを一度も見ることがありません。それは家で自分たちが食べるぶんのお米を作っているからです。それは大変なこともあるけど、いつでも大すきなお米をたっぷり食べられるからとても幸せなことです。

わたしが小学生になってからは、ちょうど春休みの四月に田植えをして夏休みの八月にいねかりをするので、毎年少しだけ手伝っています。今年の田植えには同じクラスの友達もさそってなえ箱をあらったり、田んぼの中をのぞいてカエルの卵を見つかりました。

夏のいねかりまでの間には、父が田んぼの土手の草を切ったり、毎日田んぼの水を見に行ったりしていねを見守って育ててくれました。わたしの家ではいねかりをした後のわらを野さい畑で使うので、いねかりの日にわらをかわかすためにひっくり返す手伝いをしました。苦手なカエルがピョンピョンとんでかなりびっくりしたけど、あの田植えのときのかえるのたまごがおたまじゃくしになってカエルになったんだなあと、いねといっしょに成長したようです。いねなほのからをむいてお米のつぶを集めました。全部で五十二つぶありました。少しの量だったけど自分でしゅうかくしたお米を食べてみたくてたいてもらいました。たきたてのお米を食べてみたら、少しかたかったけどおいしかったです。

おいしいお米ができるためには、家族だけじゃなくてほかのたくさんの人が時間や気持ちをこめて作られているんだなと思いました。だからわたしも田んぼで集めたお米のように、一つづつ大切に食べていきたいと思えます。